

# つくばセンターエリアにおけるロボット実験区の看板分布と走行可能な歩道の分析

髙 瑤（地球科学専攻）

- 1. 目的:** つくば市内の一定エリアには「つくばモビリティロボット実験特区」がある。この実験エリアを周知する看板が市内の中心地周辺に点在している。看板の数と分布を考察して、現段階でロボットの走行可能な歩道分布の現状を把握する。
- 2. 対象地域:** 対象地域はつくばセンター周辺を中心とした、エリアと筑波大学から国道 354 までの直線距離 8km の図1の範囲である。この範囲には、つくばの中心部を縦断する遊歩道が設けられている。
- 3. 研究手法:** Survey123 を用いてロボット実験区看板の設置位置と属性データを記録した。そして、Survey123 ホームページを用いて収集したデータの分析を行った。最後に、ArcMap を用いて地図化し、看板がある道に沿ってロボットで走行可能な歩道分布の現状を把握した。

行可能な歩道で行われている。調査で見つかった地域内のロボット実験区看板は 62 個である。掛け看板が 34 個、立て看板が 28 個となっていた。分布の特徴として、全ての看板はつくば公園通りに沿って分布する。筑波大学内では看板がみられなかった(第 1 図)。現状では、モビリティロボットの走行実験は主につくばの公園通りに沿った遊歩道に設けられている。次に、看板の属性データと設置されている地域との関係を調査した。中型の立て看板は主に公園内と周辺に設置される。小型の掛け看板は主に公園間の通路にあり、大型の看板はつくばセンター駅前に設置されている。看板の役割はモビリティロボットの走行実験区をアピールするために設置されているものと考えられる。



図1. つくばセンターエリアにおけるロボット実験区の看板分布と走行コース

表1. 看板の属性データ

置き方	サイズ			掛け数			合計
	小型	中型	大型	単幅	並列	両面	
掛け看板	21	10	3	24	8	2	34
立て看板	0	27	1	28	0	0	28
合計	21	37	4	52	8	2	62

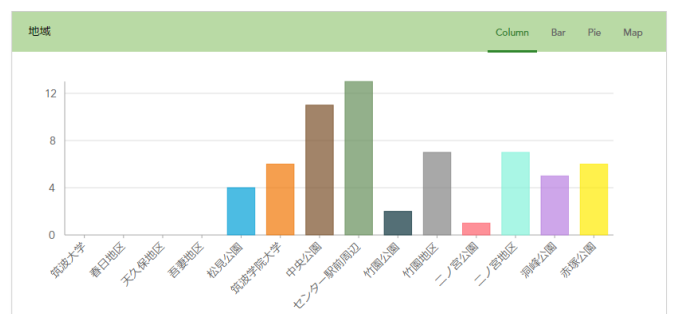


図2. 看板分布数の地域別

- 4. 結果・考察:** モビリティロボットの走行実験は、道路幅が約 3m 以上、自転車も走